

自分たちにあったワークショップはどれ？

防災・減災について学ぶワークショップにも様々な種類があります。
自分(たち)に必要な情報は何か、最優先で学ぶべきことは何かを把握しましょう。

お住まいの地域の特性から考える。

同じ区内でも、地形や住民構成によって災害のリスクは全く異なります。
まずは、自宅周辺の地域特性から優先順位を考えてみましょう。

川沿い・がけや傾斜地 → 水害、土砂災害を想定したハザードマップや避難所の場所確認は必須！

高齢者が多い・戸建てが多い → ハザードマップと避難時の実際の動きについて。

集合住宅が多い → 耐火性・耐震性に優れているので、在宅避難対策を中心に。

こんな人たちと一緒に学びたい！実施主体別を選ぶワークショップ

	こんな人にオススメ	どんなノリ？	自助・共助	おすすめワークショップ		
				食 (P10-P15)	トイレ (P16-P17)	ハザード マップ (P18-P23)
個別	一人暮らし・子供が小さいファミリー・ 気楽に参加したい方・キャンプ好き・ 自分のスケジュールに合わせたい方	気軽	自助	◎	○	
少人数	お友達同士・ご近所・職場・サークル など	仲間と楽しく	共助	○	◎	◎
団体	自治会・管理組合・PTA・法人・オフィ スビル など	必要性高い	共助	○		◎
インターネット	一人暮らし・自分のスケジュールに 合わせたい・身軽に動けない方 など	気軽	自助・共助	◎	◎	○

防災・減災ワークショップの進め方

自分たちに合った
ワークショップの
内容を検討

実施場所確保
実施スタッフ役割
分担決め

広報・募集
組織の広報媒体、
連絡網で告知・募集
(SNSの活用も有効)
※募集期間は1ヶ月程度

可能であれば
現地ロケハンや
リハーサル実施

ワークショップ開催
実施の様子を写真・メモ
で記録
振り返り、課題を共有

避難の種類を知ろう！

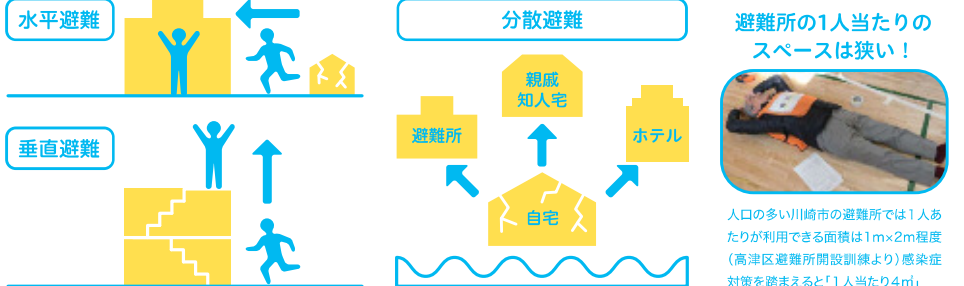
「災害が起きたらどうしますか？」という質問に「避難所に行く」と答える方はまだまだたくさんいます。答えは×です。
避難所は基本的に自宅が危険な状態になっている人が行くところだからです。高津区の避難所状況を見ても、収容人数は簡単に超えてしまいます。自宅が倒壊しかけている、浸水や土砂災害の危険性があるなど、自宅が危険な状況になっていない場合は、原則「在宅避難」になることを覚えておきましょう。さて、避難の種類もいくつかあります。要は安全な場所に早めに避難すること。

水平避難 → 海や河川からより遠くへ移動したり、避難場所へ移動すること。

垂直避難 → 津波や洪水の際に自宅や近隣の頑丈な建物の上階に上がって安全を確保すること。

分散避難 → 避難所に多数集うことで密閉、密集、密接により生じるウィルスなどの感染拡大を避けるため、避難先として在宅避難のほかに関せき・知人宅、ホテル、車中などへ避難すること。

この「分散避難」という考え方が注目されています。「ペットを飼っていて避難所には行きづらい」など共通項を持っている近所の人たちと日頃からつながることも、分散避難が出来る場を作ることとなります。



ワークショップのポイント → 災害時、適切な避難ができるように
避難の種類を知る

ワークショップのやりかた → クイズ形式(回答式・○×式など)

ちょっと知恵袋

「同行避難」が、ペットとともに安全な場所まで避難する行為(避難行動)を示す言葉であるのに対して、「同伴避難」は、被災者が避難所でペットを飼養管理すること(状態)を指す。ただし、ペットの飼養環境は避難所等によって異なることに留意。環境省「人とペットの災害対策ガイドライン」より